

一小の校内研修(一人1授業・授業研究会)

道徳科の学習

令和4年9月7日(水) 第5校時 6年1組

＜主題名＞ ほんとうの友達【友情、信頼】 ＜教材名＞ ロレンゾの友達

＜学習について＞

この学習で用いた資料は、次のような内容です。

20年ぶりに帰ってくるロレンゾが罪を犯したと聞き、尋ねてきたらどうするか友達3人で話し合うが、翌日、ロレンゾは濡れ衣を着せられていたと分かる。

3人は「逃がす」「自首をすすめるが、無理なら逃がす」「自首をすすめるが、無理なら警察に知らせる」という異なる対応を考えていたが、結局そのことはロレンゾに伝えなかった。

本時のねらいは次の通りです。

よりよい友達関係について、ロイロノートを用いて、3人の登場人物の思いを考え話し合ったり、3人で話したことをロレンゾに伝えなかった理由を考えたりすることにより、互いに信じ合うことが大切であることに気づくことができる。

活動1 アンケート結果から、本時のめあてをつかむ。



ロイロノートのアンケート機能を用いて「本当の友達とは？」と児童に問いかけました。(複数選択可、選択肢自由追加)
瞬時に結果がグラフで示され、比較することにより、本時の課題「「本当の友達」について考えよう。」を設定しました。

活動2 資料「ロレンゾの友達」を読んで話し合う。



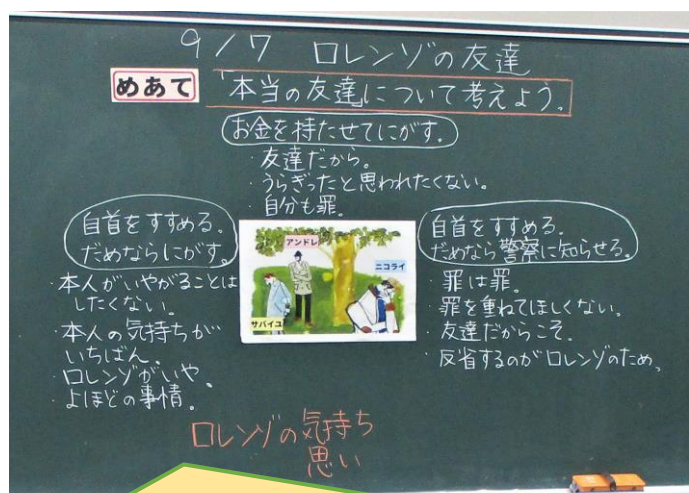
場面絵を用いて話の内容や3人の考え方の違いを捉えます。

そして、そのときの3人それぞれの登場人物の気持ちを考え、カードに記入しました。



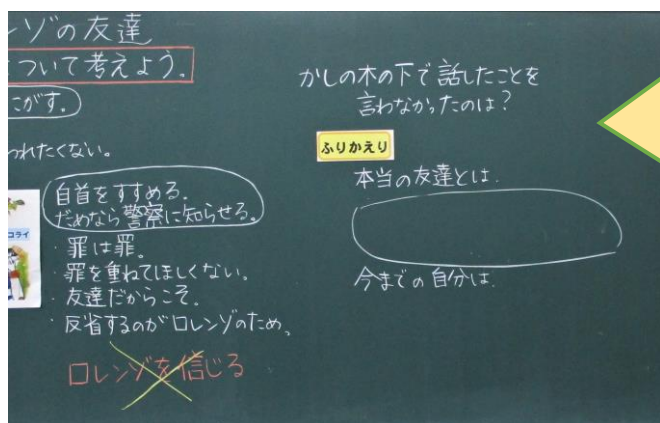
次に、グループで話し合い、互いの考えを発表しました。

そして、自分と考え方が似ていると思う人物を一人選び、その理由を発表しました。



児童は互いの考えを聞き合う中で、様々な考えに触れることができ、友達という存在について考えを広げていました。

また、3人に共通している思いを考えることにより「3人ともロレンゾのことを考えている」ことをとらえていきました。



最後に、教師が「かしの木の下で話したことを3人とも口にできなかったのはどうしてでしょう。」と問いかけました。

児童は、「3人には、ロレンゾを信じ抜く気持ちが足りなかった」ことに気付くことができました。

3 学習を振り返り「本当の友達」について考えをノートに書く。

⑤ 本当の友達とは、自分を信じ続けてくれる人。
自分のことを考えてくれる人。
今までの自分は、ただ遊んだり心配してくれたりする人のことだと思えていたけれど、このお話を読むと、自分を信じてくれているから友達と言えるということに気付いた。
自分のことを信じてくれるよう、自分も友達のことを信じようと思います。



ふりかえり
本当の友達とは、友達のことを自分のこととあがって考える人だと思う。
今までの自分は、友達のことを完全に信じることはできなかった。でもこれからはもっと信じてあげられるようになりたいです。

これまでの自分と登場人物たちの友達関係を重ね合わせながら、今後を見据えていた児童の姿が見られました。

＜ふりかえり＞
本当の友達とは、友達の言ったことを信じて、守ってくれる人だと思う。
今までの自分は、楽しい人や、助けてくれる人だと思っていたが、これからは、友達の言ったことをあやしまずに、友達を信じていきたいです。

